



「エヌプラス～新たな価値をプラスする材料・機械・技術の展示会」に出展

当社は、9月13日～15日に東京ビッグサイトで開催された「エヌプラス～新たな価値をプラスする材料・機械・技術の展示会」において、当社各部・ユニットで連携し、10種を超える商材の出展を行った。同展示会には約250社が出展し、31,000人を超える来場者で熱気にあふれていた。当社ブースでは幅広い素材を数多く揃え、多数のお客様に新規素材・加工品を紹介した。新規分野の顧客にも当社素材を紹介することができ、新たなニーズ発掘につながる良い機会となった。

(機能材カンパニー 機能材研究開発部 機能材研究企画グループ 市林 拓)

当社の主な出展内容

- 従来材対比約20%の高性能化を実現した航空機用炭素繊維複合材
- ゴムの性能と樹脂の加工性を両立させた「ENEOS ラバージェラティック[®]」
- 金属部品の樹脂化に貢献する高摺動樹脂素材
- 高精密部品向け素材として、世界最高レベルの耐熱性を有する液晶ポリマー「ザイダー[®]」
- 高い耐熱性と低粘度を両立した高耐熱性エポキシ樹脂
- ナノインプリント技術を応用した曇り防止構造・無反射構造
- 高い吸音性能を有するJXマイクロファイバー不織布



「ENEOS ラバージェラティック[®]」の展示物



当社出展ブースの様子



非塩素系超高性能プレス加工油 「リライアプレスシリーズ」の新発売について

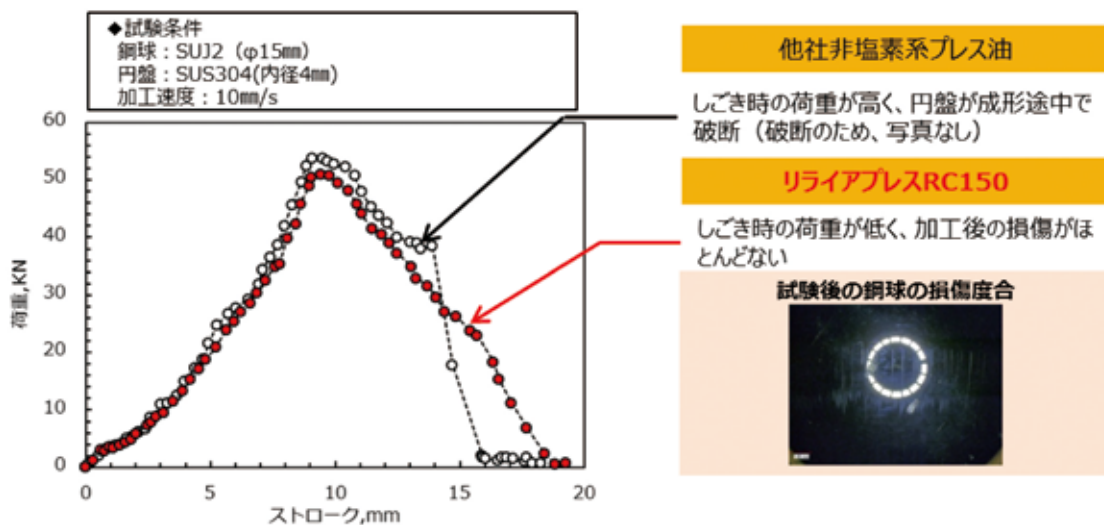


身近では、スプーンなどの食器類や飲料缶の缶成形から、ナットやボルト、自動車のクラッチやディスクブレーキ、電子コネクターや車載用 Li バッテリーボックスにまで、様々な用途に使用されているプレス加工だが、その加工の難しさから塩素化パラフィンが未だ広く使用されている。塩素化パラフィンはその自身が持つ、また燃焼時に発生するダイオキシンが持つ発がん性リスクから、高性能非塩素系プレス油が強く要望されていた。

当社では、従来の非塩素系プレス加工油「ユニプレステラミ」シリーズに代わり、塩素系プレス加工油と同等以上の性能を有する非塩素系ステンレス用プレス加工油剤「リライアプレス RC」シリーズ、一般鋼板等の塑性加工に適用可能な「リライアプレス RB/RA」シリーズを 2017 年 3 月に新発売した。
(潤滑油カンパニー 潤滑油販売部 工業用潤滑油グループ 千本木 紀夫)

<加工性試験結果>

バーリング試験：円盤の中心に小径の穴をあけた試験片に所定の「しわ押さえ荷重」で鋼球を強引に通過させ、鋼球の損傷状態やストローク荷重線図でプレス油の性能を確認する試験



<リライアプレスシリーズの代表性状>

商品名	動粘度 (40℃)	引火点 (COC)	流動点	銅板腐食	脂肪油分	硫黄分	危険物分類
	mm ² /s	℃	℃	(100℃、1h)	%	%	
リライアプレス RA15	15	178	-20.0	1	15	2.0	第 3 石油類
リライアプレス RA20	20	188	-20.0	1	15	2.0	第 3 石油類
リライアプレス RA30	30	222	-10.0	1	15	2.0	第 4 石油類
リライアプレス RA60	60	228	-10.0	1	15	2.0	第 4 石油類
リライアプレス RA150	150	218	-7.5	1	30	4.5	第 4 石油類
リライアプレス RA220	215	222	-5.0	1	30	4.5	第 4 石油類
リライアプレス RB50	50	182	-30.0	4	>30	11.5	第 3 石油類
リライアプレス RB90	90	198	-25.0	4	>30	12.0	第 3 石油類
リライアプレス RC100	95	140	-40.0	4	>50	12.5	第 3 石油類
リライアプレス RC150	140	163	-37.5	4	>50	13.0	第 3 石油類



各賞受賞

日本トライボロジー学会 2016年度技術賞受賞

当社は、今年5月、株式会社ジェイテクトと共同で開発した「モータ玉軸受用低トルク静音性向上グリースの開発」で、一般社団法人日本トライボロジー学会の2016年度技術賞を受賞した。同賞は、トライボロジーに関する実用技術で、新製品・新技術の開発、既製品・既技術の性能向上などに関する業績に与えられる賞であり、当社は8年ぶりの受賞となる。

本開発は、玉軸受の回転トルク、静音性に及ぼすグリースの影響因子を明らかにした上で、性能向上が可能となるグリース組成の設計技術を構築し、低トルク性と静粛性を両立させる軸受開発を実現したものである。エネルギー消費削減による環境への貢献が高く評価された。



左から三宅氏（株式会社ジェイテクト）、
トライボロジー学会中野前会長、
津田氏、藤原氏（株式会社ジェイテクト）、
菅蒲社員（中央技術研究所 潤滑油研究所）、
徳毛社員（中央技術研究所 技術戦略室）